

五輪初 性別適合手術の選手

東京五輪で2日に行われた重量挙げ女子87^キ超級にトランスジェンダー女性のローレル・ハバード(43)＝ニュージーランド＝が出場した。性別適合手術を受け女性となった選手の女子競技参加は五輪史上初。「多様性の尊重」の理念に沿うと歓迎される一方、「元男性は有利」と公平性を懸念する声も上がった。

会場となった東京国際フォーラムには、前日までより多くのメディアが集まった。ハバードは緊張した表情で、スナッチ1回目で120^キに臨んだ。バー

重量挙げ女子 多様性歓迎、懸念も

ベルを一気に持ち上げたが立ち上がれずに失敗。

5^キ重量を上げた2回目は成功に見え、ハバードも拳を上げたが判定は失敗だった。一度天井を仰いでから挑んだ最後の試技でもバーベルは落下。その瞬間に笑顔になり、客席に手を振ると拍手が上がった。ミックスゾーンでは「誰もが参加できる大会にしてくれて感謝している」と述べた。

IOCは、かつて女性に性別



重量挙げ女子87^キ超級でスナッチの1回目で120^キに挑むニュージーランドのハバード＝東京国際フォーラム

理由にトランス女性の女子競技出場を認めておらず、競技によって対応に差がある。

元は男性でも、男性ホルモンのテストステロン値が下がれば筋力は落ちる。岡山大学院の中塚幹也教授は、IOC基準をクリアすれば「ホルモンの効果はかなり落ちる」と話す。

確認検査を行っていたが、人権侵害との批判を受け2000年シドニー五輪前に廃止した。04年に性別適合手術で女性となった選手の参加に関する規定を設置。15年には不備を補う形で、男性ホルモン値が一定値以下であることなどを条件とするガイドライン(指針)を策定した。

国際重量挙げ連盟(IWF)は17年にこの指針を採用しハバードが五輪の切符を獲得。一方、ワールドドラッグビー(WR)は安全性を

だが今大会の女子59^キ級銅メダルの安藤美希子(FACONSアルテイング)は「過去に重いものを持った経験は、この競技で絶対的なアドバンテージになる」と述べ、抵抗感を示した。

IOCのバツハ会長はガイドラインの見直しを進め、年内にも各国競技連盟(IF)に新たな枠組みを示す方針だ。

スポーツとジェンダーの問題に詳しい関西大の井谷聡子准教授は「今回ハバード選手がどう扱われるかは、社会の中でトランスジェンダーの人々がどう扱われるかに大きな影響を及ぼす」と話した。